



消防千葉

2021 No.584 令和3年10・11月号

目次

巻頭言 (千葉市消防局長)	2
第171期初任科卒業式	3・4
第172期初任科入校式	5
第57回消防長・消防団長会議	6・7
わが町の消防団 (四街道市消防団・旭市消防団)	8・9
東西南北	10～13
日々の動き	14



道の駅 発酵の里こうざき (神崎町) 香取支部

巻 頭 言

「夢と誇りがもてる安全・安心のまちづくりを目指して」

千葉県消防局 消防局長 中村 由明



千葉市は東京湾に面して房総半島のほぼ中央に位置し、首都東京まで約40kmの距離にあり、面積は271.78平方キロメートル、人口は97万人を数えます。平成4年4月に全国で12番目の政令指定都市となり、令和3年1月1日には市制100周年を迎え、多種業務機能が集積した首都機能の一翼を担う大都市として、また、世界に開かれた国際情報都市として発展を続けています。

千葉市消防局では、本部に総務部、警防部、予防部の3部9課1消防学校、市内には令和3年4月1日に供用を開始した緑消防署あすみが丘出張所を含めた6消防署19出張所を配置し、971名の職員が「安全で災害に強いまちづくり」を目指し、一丸となって各種事業に取り組んでいます。

また、目まぐるしく変化する社会情勢や複雑多様化する災害に対応するため、各種災害活動に必要な専門的知識・技術を持った人材の育成、地域消防防災の中核的役割を担う消防団の充実強化、ワークライフバランスの実現と健康管理対策の推進など、消防組織体制の整備を図るとともに、消防活動体制の充実強化や火災予防対策の推進に努めています。

さて、近年では毎年のように台風や大雨など自然災害による被害が多発しており、本年も7月に発生した静岡県熱海市での大規模土石流や8月に発生した九州・中国地方を中心とした広範囲で記録的な大雨などにより多くの人命や財産が失われました。千葉県においても一昨年の台風15号、19号及び台風21号に伴う豪雨の被害は記憶に新しいところと思います。こうした中、災害対策基本法が改正され、早期の避難指示により逃げ遅れなどの被害の軽減が図られていますが、我々消防としても市内情勢の事前の把握、情報収集に基づく配備体制の早期構築、各種関係機関との情報共有・連携等により災害対応・被害軽減に当たっているところです。

また、昨年1月に国内で初めて感染者が確認された新型コロナウイルス感染症はいまだ収束に至らず、感染拡大時には医療提供体制が逼迫し、全国的に救急搬送困難事例が急増するなど、救急業務にも大きな影響を及ぼしました。当局においては、令和3年1月の第3波から、保健所へ調整員を派遣し、情報の共有化、傷病者搬送の円滑化を図り、7月からの第5波時には保健所調整員の拡充や救急隊の増隊を行いました。非常に厳しい状況が続きました。このような中、職員一人ひとりが感染防止対策を徹底し、市民の負託にこたえるため、懸命に業務遂行に従事しています。

結びに、現在私たち消防は、厳しい社会経済情勢や人口減少・超高齢社会など、より高度な行政判断を要する状況に直面していますが、引き続き、市民の安全・安心を守るため、組織目標の達成に向けて取り組んでまいります。

第171期消防職員初任科生卒業式

千葉県消防学校

令和3年9月17日（金）、千葉県消防学校の消防職員初任科第171期の卒業式が行われました。

4月8日の入学から6か月、29所属135名の若々しい消防職員が厳しい研修を終了し、消火・救急救助知識及び技術を習得し、それぞれの職場に戻り、第一線で活躍することになります。

当日は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、参加者全員がマスクを着用中、厳粛に執り行われ、国歌演奏の後、卒業生の氏名が読み上げられ、各人が緊張した面持ちで卒業証書の授与を受けました。

次に、熊谷知事から祝辞及び最優秀賞1名への表彰が行われ、引き続き優秀賞12名、努力賞12名の表彰、卒業生全員に記念品が贈呈されました。

次に、山口千葉県消防学校長の告辞、千葉県消防協会長（代理鈴木専務理事）、千葉県消防長会長（代理中村副会長）の祝辞がありました。

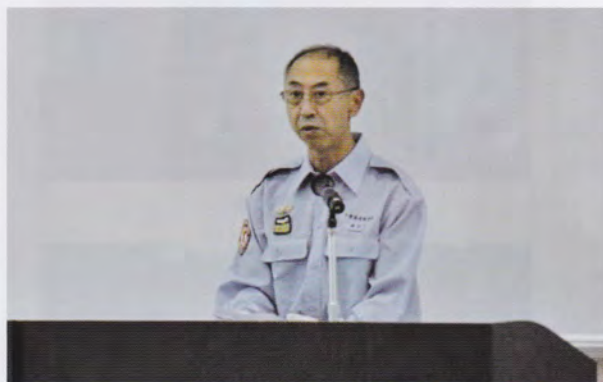
次に、卒業生を代表して市原市消防局の田中仁義君から答辞が述べられ、最後に校歌が演奏され無事終了しました。



卒業生答辞（市原市消防局 田中仁義君）



熊谷知事祝辞



山口学校長告辞



消防協会長（代理 鈴木専務理事）祝辞



消防長会長（代理 中村副会長）祝辞

また、15日（水）には、教育訓練の成果を確認するため、午前9時30分から消防学校屋外訓練場において「実科査閲」が行われました。学生集合、通常点検、小隊訓練、体力向上体操、救急訓練、消防操法訓練、救助訓練、最後には火災防ぎょ活動の部隊行動を基本として、救出訓練と一斉放水訓練を実施し、初任科で習得した消防活動・救急活動の集大成として、全員により、火災防御・救急救助技術を披露しました。



学生集合



通常点検



小隊訓練



体力向上体操



救急訓練



消防操法訓練



救助訓練



総合活動訓練



総合活動訓練



一斉放水訓練

第172期消防職員初任科生入校式 千葉県消防学校

令和3年10月5日(火) 午前11時から千葉県消防学校大講堂において、消防職員初任科第172期の入校式が行われ、26所属127名の若々しい学生が入校しました。

これから6か月間の厳しい研修が始まります。

当日は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、参加者全員がマスクを着用中、開式のことば、国歌清聴、入校生指名点呼に続いて山口学校長の式辞が述べられ、来賓として千葉県知事(代理 生稲防災危機管理部長)、消防協会長(代理 鈴木副会長)、中村消防長会長からの祝辞がありました。

続いて入校生代表(安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部 鈴木 友三朗君)からの宣誓が行われ、研修に励んで一人前の消防職員になる旨の誓いが述べられました。



入校生代表の宣誓
(安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部 鈴木友三朗君)



山口学校長の式辞



知事(代理 生稲防災危機管理部長)の祝辞



消防協会長(代理 鈴木副会長)の祝辞



中村消防長会長の祝辞

第57回市町村消防長・消防団長会議の開催

10月29日（金）午後、第57回市町村消防長・消防団長会議が、市原市の市原市民会館大ホールで、県下市町村から消防（局）長と消防団長等約150名の出席により開催されました。

会議冒頭、来賓（熊谷千葉県知事、銀川日本消防協会業務部長、生稲県防災危機管理部長、齋藤県消防課長、山口消防学校長）並びに主催者（石橋消防協会長、中村副会長、鈴木副会長、安達副会長、荘司副会長、関根副会長）の紹介がされ、引き続き、今年の消防長・消防団長会議以降、新しく就任された消防（局）長・消防団長23名の紹介が行われました。

その後、鈴木消防協会副会長の開会の言葉、石橋千葉県消防協会長の主催者挨拶、熊谷千葉県知事及び日本消防協会長（代理 銀川業務部長）の来賓祝辞がなされました。



挨拶する石橋会長



熊谷千葉県知事の祝辞



銀川日本消防協会業務部長の祝辞

議事は、石橋協会長が議長となり進行され、最初に、生稲防災危機管理部長及び齋藤消防課長による防災危機管理部各課の説明が行われ、その後、山口消防学校長による消防学校の説明に続き、銀川日本消防協会業務部長から各共済事業等の説明がなされ、最後に、鈴木専務理事から千葉県消防協会の事業概要等の説明が行われ、議事は無事終了しました。



生稲防災危機管理部長の説明



齋藤消防課長の説明



山口消防学校長の説明



鈴木専務理事の説明

休憩後には、千葉科学大学副学長の藤本一雄氏による「近年の風水害の特徴と消防団の活動について」と題する講演が行われました。

藤本先生は、1999年3月に東京工業大学大学院博士課程を修了後、千葉科学大学には、2004年4月から勤務され、2020年4からは副学長に就任されています。

専門は、防災・危機管理学、災害マネジメントなどであり、各種学会に所属するとともに、県内の各自治体の様々な専門的な委員会委員に就任され活躍されています。

また、千葉科学大学では、学生消防隊の顧問もなさっており、千葉県と消防協会の共催で行った消防団活動PRイベントではシンポジウムのコーディネーターを引き受けていただくなど、地域・職域の防災リーダーの育成についても御尽力いただいています。

講演では、初めに「最近の風水害における問題と改善策」として、平成23年から今年までの大きな被害をもたらした台風等の被害状況と自治体の対応などの解説があり、また、警報や避難情報の変遷等に触れられました。

次に、「風水害時の消防団の活動実態と課題」として、消防団の活動事例の紹介、女性・学生団員数の推移や災害救助法が適用された自治体に対して行った女性・学生団員に関するアンケート結果をもとに、装備、入団に関する考え、期待する活動などの紹介がありました。

最後に、「避難誘導（呼びかけ）に関する知見」として、避難の説得を拒否した事例や避難の説得に成功した事例を交え、人命優先で時には、「命令型」の口調が有効であるとの解説がされました。

なお、これまで実施されていた交流会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、昨年度に引き続き中止となりました。



千葉科学大学副学長 藤本一雄講師



わが町の消防団 ① 四街道市消防団



四街道市は千葉県の北部に位置し、都心へ40キロメートルの圏内にあり、市域は東西7キロメートル、南北9キロメートル、面積34.52平方キロメートルです。

昭和30年3月、千代田町と旭村が合併し四街道町が誕生。当時の人口は18,014人でした。昭和40年代前半から旭ヶ丘グリーンタウン、千代田団地、みそら団地などの大型団地が誕生し、首都圏のベッドタウンとして急速に人口が増加するとともに、自然と都市機能が調和したまちとして成長してきました。昭和56年4月、市制が施行され新たな歩み

を始め、今年度は市制施行40周年を迎え、現在、四街道市では約95,000人の市民が共に未来を創造する「市民参加」のまちづくりを推進しています。

四街道市消防団は、河田団長以下233名(令和3年10月1日現在)、団本部、16個分団の体制で、装備については団司令車2台、消防ポンプ自動車7台、小型動力ポンプ付積載車を10台配備しています。

各消防団員は、地域防災力の要であることを常に自覚し、災害対応訓練、機関員訓練や火災予防運動における広報活動、水利点検及び歳末特別警戒等を実施しています。

令和元年に千葉県を襲った台風や集中豪雨災害では四街道市内においても倒木による道路の寸断や停電が起き、復旧までに大変時間がかかり、市民の生活に多大な影響を与えました。このことを教訓に、チェーンソーを使用した倒木の処理を消防団員が安全・迅速に行うため、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、消防職員の指導のもと、伐木訓練を実施しました。

また、平成17年度に発足した女性消防団員については、令和3年4月1日から消防団詰所と車両を女性が管理し、毎月訓練を実施して活動の幅を広げております。女性の強みであるソフトな面を最大限に活かしつつ、身近な地域防災のリーダーとして地域に寄り添った活動をしています。

四街道市消防団では、近年の多発化・激甚化する各種災害に対し、組織的に即時対応できるよう日頃から訓練を実施するとともに、消防団を取り巻く社会環境の変化にも柔軟に対応しながら、今後も消防団員一人一人が地域防災の要として、活動してまいります。



わが町の消防団 ② 旭市消防団

旭市は、千葉県の北東部に位置し、南部は美しい弓状の九十九里浜に面し、北部には干潟八万石といわれる房総半島屈指の穀倉地帯となだらかな丘陵地帯である北総台地が広がっています。

平均気温は15℃と年間を通じて温暖な気候と平坦な地形を生かし、水稻、野菜、果実、花卉、畜産物から水産物までそろそろ、農業産出額が全国6位にランクする「食の宝庫」です。国の指定産地であるキュウリとトマトをはじめ、あさひの恵みは首都圏の食を支えています。



旭市役所新庁舎

また、令和3年4月には待望の市役所新庁舎が完成しました。1階には歴史を学ぶ場や市民ホールが併設され、展望階からは市内の景色を堪能することができます。

旭市消防団は、鈴木格^{たかし}団長以下742名（令和3年4月1日現在）の団員により5中隊16分団47部編成で組織され、水槽付ポンプ自動車6台、消防ポンプ自動車13台、小型動力ポンプ付積載車28台の車両を配備し、常備消防と連携を図りながら日夜活動しています。

主な活動として、規律訓練、消防操法大会、総合防災訓練、歳末警戒、消防出初式、津波避難訓練といった全体行事のほか、定期的に水利点検や機械器具取扱訓練、火災防ぎょ訓練を実施しています。また各種イベントでの火災予防啓発運動や警備業務を通じて地元地区活動にも積極的に参加しています。

東日本大震災時の津波襲来により、県内最大となる死者・行方不明者16名の尊い命が犠牲となった震災から、10年目の節目となる今年3月、震災の犠牲者の遺徳を偲び、震災の記憶を後世に伝えていくことを目的に、いいおかユートピアセンター敷地内に慰霊碑が建



訓練前の検閲・アルコール消毒



消防団新入団員研修

立されました。震災当時、消防団も消防庫や消防車両に被害を受けながらも、救助・捜索・避難誘導から災害ゴミの保管処理に至るまで広範な災害活動に懸命に当たりました。

また、昨今では大型化する台風による倒木の撤去作業や、集中豪雨等による冠水箇所の排水作業など、消防団の活躍が一層発揮される場面が多くあり、地域防災のため奮闘する消防団の姿は、地域住民からも高い信頼と大きな期待をかけられています。

しかし近年は、消防団員のサラリーマン化など就業構造の変化や人口減少に起因し、地域防災のリーダーである消防団員の確保が年々難しくなっています。この問題は、旭市に限ったことではなく全国的な問題となっています。

そこで旭市では、団員確保対策の一環として、地元企業にご協力をいただくことで、各種サービスを受けられる「消防団サポート店」制度や、消防団主催による「恋活イベント」を開催しています。このイベントはこれまで6組がめでたくゴールインする運びとなるなど毎年たいへん多くの方々から好評を得ています。このように若い世代が入団しやすい環境づくりと、団員や団員家族に対するサポート体制の強化を図ることで、消防団活動に対する理解を深めていただけるよう取り組んでいます。

これからも旭市消防団は、「自分達のまちは自分達で守る」という強い郷土愛護精神のもと、安全・安心なまちづくりに貢献すべく、関係機関と協力しながら団員一丸となって地域に根ざした防災活動を進めてまいります。

旭市消防団サポート店

『がんばれ 消防団』
私たちは応援しています。



「あさひ」
旭市イメージアップキャラクター

消防団サポート店表示証

昨年参加者
70人以上
みんなで楽しく消防体験!

消防GO!!
コン
8.24sat
13:00~18:00

旭市消防本部で対面
はしご車乗車体験等
サンモールホールで軽食バーベキュー

- ◆会場 旭市消防本部
- ◆募集人数 独身男女各20名(20~45歳)先着順
男性は旭市消防団員、旭市消防職員に限る
- ◆参加費 男性2,000円 女性1,000円(軽食代込み)
- ◆申込 募集申込用紙を旭市消防本部総務課窓口、FAX、メールのいずれかで申込。先着順で定員になり次第締切。
- ◆お問い合わせ 旭市消防本部 総務課 消防団班
Tel 0479-63-5155 fax 0479-63-7477
メール danachi@city.asahi.jp

恋活イベントチラシ

東 西 南 北

令和3年度我孫子市・柏市合同水難事故救助訓練を実施 我孫子市消防本部・柏市消防局

我孫子市消防本部・柏市消防局では、令和3年7月14日(水)・15日(木)の2日間、両市の境界線に位置する手賀沼において合同水難事故救助訓練を実施しました。

プレジャーボートが手賀大橋橋脚に衝突し要救助者が数名いる模様との想定で訓練を開始し、実践に即した情報共有を行い、救助艇2艇を出艇させ、更に両市が保有している災害対応無人航空機(ドローン)2機により上空からの検索活動を実施し、迅速な救出活動ができました。

発災時は、連携体制が構築できるよう、今後も両市の災害対応能力強化に努めてまいります。



水面救助装備の検証を実施 柏市消防局東部消防署

柏市消防局東部消防署では、令和3年7月14日(水)、15日(木)の2日間、静水環境での水難救助事案発生時の初動体制確立を目的とした「水面救助装備の検証」を実施しました。

市民プールを活用し、軽装備から水面救助装備まで、様々な装備を着装した状態での基本泳法、溺者救助を行うことで、装備ごとの水の影響や活動効率の違いを体感することができ、大変有意義な訓練となりました。

今回の検証結果をもとに、現場の状況に合わせた装備を判断し、早期救出に繋がれるよう、今後も訓練を重ねてまいります。



チェーンソーの特別講習を実施 市原市消防団

市原市消防団では、労働安全衛生規則の一部改正に伴い、令和3年7月18日(日)に市原市総合防災センターにおいて、昨年度更新したチェーンソーの特別講習を実施しました。

ポストコロナ社会ではありますが、台風シーズンを前に、災害発生時に安全かつ迅速な初動対応が図れるようチェーンソーの適切な使用方法を確認するとともに、倒木処理を想定した切断など、実災害に即した内容で実施しました。



東
西
南
北

「検見川ビーチ連盟」との合同訓練を実施 ～海辺の安心・安全を守るため、ボランティア団体と連携～

千葉市消防局美浜消防署

千葉市消防局美浜消防署では、ウインドサーフィンなどマリンスポーツ全般が楽しめるビーチとして人気のある「検見川の浜（千葉市美浜区）」において、ボランティアでレスキュー活動をしている「検見川ビーチ連盟」との連携強化を図るため、令和3年7月25日（日）に水難事故を想定した合同訓練を実施しました。今回の訓練では、浮環の投入訓練、要救助者のポート引揚訓練及び同連盟が保有するレスキュー艇を活用した救助訓練等を実施し、水難事故への対応能力の向上を図るとともに、有事の際における行動（通報や消防隊の誘導等）について確認を行いました。今後も更なる連携強化を図り、海辺の安心・安全の確保に努めてまいります。



東
西
南
北

倒木・伐採訓練を実施

柏市消防局

柏市消防局では、令和3年7月20日（火）、29日（木）の2日間にわたり、土砂災害及び大規模災害を想定した「倒木・伐採訓練」を実施しました。

チェーンソー取扱い要領や切断手順、危険要因について事前に確認した上で、樹木を倒す方向や、切断する角度について隊員間で話し合い、実際にチェーンソーによる切断を行うことで、災害現場をイメージした実践的な訓練となりました。

今後も、いつ起こるか分からない災害に備え、災害対応力の向上に努めていきます。



東
西
南
北

国際消防救助隊技術訓練「ショアリング」を実施

柏市消防局

令和3年7月30日（金）に本市消防訓練センターで、柏市の国際消防救助隊登録隊員6名を中心に、木材等を使用して倒壊危険のある建物を安定化する手技のショアリング救助技術訓練を実施しました。

27名の救助隊員が参加し、建物内側から支える「Tポストショア」と、建物外側から支える「スプリットソールレイカー」を設定しました。

国際消防救助隊登録隊員の知識技術を高めるとともに、未登録の救助隊員への共有も図れたため、とても有意義な訓練となりました。

本市消防局では、独自の国際消防救助隊年間訓練計画に基づき、日々、訓練に励んでおります。



（木材の長さを測る様子）



（最終調整の様子）

東 西 火災原因調査に関する研修を実施

南 北 松戸市消防局

松戸市消防局は、火災原因調査の指導者育成及び基本的な調査要領の習得を目的に、毎日勤務及び隔日勤務の調査員に対する火災原因調査研修を実施しました。

毎日勤務の調査員の研修は、現場の見方、書類作成、損害調査、情報公開等の座学、鑑識鑑定要領、電気火災実験、車両火災等の実技及び模擬家屋を作成し、建物火災現場を再現した現場見分要領等を合計5日間実施しました。参加した毎日勤務の調査員からは指導ポイントが理解できたため、今後の指導に役立てたいとの声がありました。

また、隔日勤務の調査員の研修は、模擬家屋を使用した現場見分要領を合計4日間実施しました。参加した隔日勤務の調査員からは基本的な調査要領が習得できたため、今後の調査に役立てたいとの声がありました。



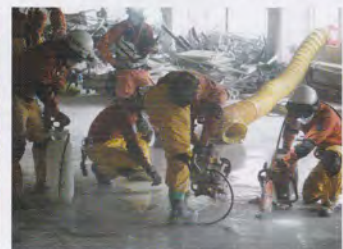
東 西 国際消防救助隊千葉県連携訓練

南 北 松戸市消防局

松戸市消防局では、令和3年8月12日（木）、13日（金）に旧国保松戸市立病院跡地において、千葉県下の国際消防救助隊登録消防本部により、海外にて大規模な地震災害が発生し、建物が倒壊して多数の負傷者が発生した想定のもと訓練を実施しました。

大規模な地震災害では、建物内部への進入が可能かどうかの評価や、余震の影響等による二次倒壊を未然に防ぐための技法（ショアリング）、負傷者を救出するための開口部を確保するための技法（ブリーチング）等を行いながら負傷者の救出活動を行います。

今回は、解体中の建物を使用しての訓練で、実際の被災地さながらの緊張感のある訓練を実施することができました。



東 西 ファイヤーコントロールボックスを使用した検証会を実施

南 北 印西地区消防組合消防本部

印西地区消防組合印西消防署では、令和3年8月23日（月）に印西消防署燃焼実験室において、簡易的なファイヤーコントロールボックスを使用し燃焼実験を実施しました。

ファイヤーコントロールボックスとは、木造家屋に見立てた模型のことで、実際に燃焼させ、火災発生時における燃焼の過程や拡大の状況、煙の色の変化、放水の効果などを観察する訓練方法です。

今回の燃焼実験では、単一区画に開口部を3箇所設けただけの単純な構造のファイヤーコントロールボックスを使用しましたが、実火災に近い状況をいくつか再現することができ、内部の温度変化、気流の観察、炎と煙の動きやフラッシュオーバー等が発生する原理、噴霧放水の有効性を確認することができました。また、実験後の木材は、火災原因調査の教養素材としても活用できることが確認できました。今後は、より多くのシチュエーションを再現できるよう研究を進めてまいります。

燃焼実験動画を編集後、当組合職員が視聴できるようにし、組織全体のレベルアップを目指します。



蚊取り線香を使って、開口部付近の気流を観察します



消防協力者に感謝状を贈呈

東 西
南 北

習志野市消防本部

習志野市消防本部では、令和3年9月7日（火）心肺停止傷病者を救った消防協力者に対し、感謝状贈呈式を行いました。

当事案は、令和3年5月18日（火）市内スポーツクラブの屋内プールで、70代の男性が心肺停止状態となり、3名の職員がプールサイドへの引き上げ、迅速な119番通報、胸骨圧迫及びAEDを使用したことにより、救急隊到着時には心拍が再開、救急車内では意識が回復し、男性の社会復帰につながりました。

この功績を称え、同スポーツクラブに消防長より感謝状を贈呈したものです。



災害時相互応援等に関する協定の締結式を実施

東 西
南 北

市原市消防局

令和3年9月22日（水）、市原市と三重県四日市市の間で災害時相互応援等に関する協定締結式がリモートで開催されました。この協定は、両市のいずれかで大規模災害が発生した場合に物的、人的支援を行うほか、平常時の地域防災施策や石油コンビナート防災体制に関する知見を共有し、相互の地域防災力向上を目的として締結しました。

日頃から顔の見える関係を構築し、応援、受援体制を重層化させ、更なる地域防災力向上を図っていきます。



第40回 火災予防ポスター作品審査会を開催

東 西
南 北

銚子市消防本部

銚子市消防本部では、令和3年9月29日（水）、市内小学校4～6年生から応募のあった火災予防ポスター107点を対象に、審査員として市内中学校美術教諭2名の協力をいただき作品審査会を行いました。

作品審査会は昭和55年から始まり、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け実施を見合わせましたが、今年度で第40回を迎えることができました。

作品審査会で選ばれた最優秀賞作品（市長賞）は、平成8年度から火災予防啓発ポスターとして印刷、火災予防運動に併せて市内各事業所へ配布し、児童を通じて防火の意識を市内事業所、各家庭に広く普及しております。

なお、作品審査会に際しては、新型コロナウイルス感染症対策（体温測定、手指の消毒、室内換気、ソーシャルディスタンス）を徹底し実施しております。



日々の動き

防災危機管理部／消防協会 共同編集



令和3年11月

- 11月12日 第57回消防殉職者慰霊祭(千葉県消防学校)
11月20・21日 消防団員指導員研修(千葉県消防学校)

2021年度 全国統一防火標語 「おうち時間 家族で点検 火の始末」

令和3年秋季全国火災予防運動

11月9日(火)から11月15日(月)までの7日間

- 【重点目標】
- ①住宅防火対策の推進
 - ②乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進
 - ③放火火災防止対策の推進
 - ④特定防火対象物等における防火安全対策の徹底
 - ⑤製品火災の発生防止に向けた取組の推進
 - ⑥多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

<表紙の説明>

道の駅 発酵の里こうざき(神崎町) 香取支部

発酵文化を町内外に発信する神崎町の観光交流拠点。「発酵」をテーマにした道の駅で、全国にある国土交通省選定・重点「道の駅」のうちの一つです。日本が誇る発酵文化を世界に向けて発信しています。

全国の発酵食品が大集結している「発酵市場」では、日本中から集めた発酵食品を販売。とれたて野菜と銚子港直送の鮮魚が並ぶ「新鮮市場」は、神崎町らしさが際立つ品揃えとなっています。

また、豊富なメニューが自慢の「はっこう茶房」は、町内産の発酵調味料を使用した商品をカフェで味わうことができ、発酵の旨味を味わえる「レストランオリゼ」には、神崎町ならではの発酵料理が並んでいます。



<記事の訂正について>

2021年8・9月号の4ページ「令和3年度防火・防災ポスター展」優秀賞作品中で、横芝光町立横芝小学校6年 荒田野乃花さんの作品と我孫子市立我孫子第三小学校6年 金田未来さんの作品が入違っておりましたので、お詫びし、訂正いたします。御迷惑をお掛けし大変申し訳ございません。